

日本の音へ邦楽を楽しむ

『唄・三味線・囃子と踊りの魅力』

プログラム

1. レクチャー 邦楽って何？(三味線と囃子をもっと知るために)
お 話:今 藤 長龍郎/堅 田 新十郎

2. 素踊長唄『越後獅子』

立 方:花ノ本 海
唄 :今 藤 尚 之/杵 屋 巳之助/杵 屋 勝四寿
三味線:今 藤 長龍郎/今 藤 政十郎/松 永 直 矢
囃 子:堅 田 新十郎/堅 田 昌 宏/住 田 福十郎
福 原 百 七(笛)

3. 三味線二重奏曲『呼 応』

三味線:今 藤 長龍郎/今 藤 政十郎

4. 長唄『二人椀久』

唄 :今 藤 尚 之/杵 屋 巳之助/杵 屋 勝四寿
三味線:今 藤 長龍郎/今 藤 政十郎/松 永 直 矢
囃 子:堅 田 新十郎/堅 田 昌 宏/住 田 福十郎
福 原 百 七(笛)



花ノ本 海



堅田 新十郎



今藤 長龍郎



今藤 尚之

2015 1月18日(日) 蕨市立文化ホールくるる

開場13:30 開演14:00 ※JR蕨駅西口より徒歩3分、線路沿い。
駐車場はございません。

チケット/全席自由2,500円 発売開始/11月15日(土)

チケット取扱い/くるる窓口・蕨市民会館・銀行振込・郵便振替

お問合せ/蕨市立文化ホールくるる TEL/048-446-8311

主催/蕨市立文化ホールくるる 共催/蕨市・蕨市教育委員会 ※未就学児童の入場はご遠慮ください。

日本の音〈邦楽〉を楽しむ ～唄・三味線・囃子と踊りの魅力～

今藤 尚之 (いまふじ ひさゆき)

昭和十二年神戸市生まれ。同二十八年、(株)川崎重工業入社。同三十年、女流故今藤長尚に入門。同三十五年、今藤尚之の名を許される。同三十六年、(株)川崎重工業を退社後、上京。故三世今藤長十郎の内弟子となる。故今藤綾子に師事。同三十九年、荻江露喬の名を許される。同五十八年、大阪芸大長唄講師となり、現在に至る。「くるまざ奏舞」発足、同人に(平成十九年四月に第十四回公演)。平成五年、「日本舞踊曲大全集」(株)同朋舎出版。同十九年、パリ・オペラ座公演(市川團十郎、海老蔵父子の歌舞伎公演の長唄を今藤政太郎氏と)。同二十年六月、「尚之の会」紀尾井小ホールにて開催。同二十五年、「東燃ゼネラル音楽賞」受賞。

現在、NHK邦楽番組、国立劇場主催公演、日本舞踊協会公演、歌舞伎公演(片岡仁左衛門、市川猿之助)、各派舞踊会に出演。

今藤長龍郎 (いまふじ ちょうたつろう)

昭和四十四年東京生まれ。同五十四年、今藤綾子師に入門。同六十年、今藤長龍郎の名を許される。平成三年、東京藝術大学邦楽科を卒業。同十六年アテネオリンピックシンクロナイズドスイミング「ジャパニーズドール」三味線パート演奏。同十七年、ビクター伝統文化振興財団賞奨励賞受賞。同二十一年、日本舞踊協会新作公演「戀するフリ」作曲。代表作に「赤穂の風」「女を論ず」「弧」等がある。

現在、国立劇場、歌舞伎座、紀尾井ホール公演、NHK等に出演。

長唄五韻会同人、現邦連会員、創邦21同人。国立音楽大学非常勤講師。

堅田 新十郎 (かただ しんじゅうろう)

昭和四十二年人間国宝 堅田喜三久の次男として東京に生まれる。

平成二年明治大学卒業後、父、喜三久のもとで演奏活動を始める。平成十年四代目堅田新十郎を襲名。

現在、邦楽囃子方として、舞踊公演、歌舞伎公演、NHK「芸能花舞台」等、テレビ、ラジオ、CD、また海外でも演奏活動を行う。

長唄協会会員、桐朋学園芸術短期大学客員講師、横浜朝日カルチャー講師。

花ノ本 海 (はなのもと かい)

父・花ノ本寿に師事、昭和五十五年初舞台、平成二十二年家元披露。平成十年日本大学芸術学部演劇学科卒業。文化庁学校公演に八年間参加、国立劇場主催公演や新聞社主催公演、明治神宮奉納舞踊などに出演。また、アメリカ・ロシアなど国内外問わず多数の舞台に出演。ロックバンド「サカナクション」のPVやソニーの商品プロモーションの映像など他ジャンルの振付も手掛ける。日本工学院八王子専門学校非常勤講師。公益社団法人日本舞踊協会委員、同協会主催新春舞踊大会会長賞受賞、新作公演では主役を勤める。お囃子(鼓)を故・仙波宏祐師、長唄(三味線)を杵屋彌吉師に、義太夫(語り)を竹本弥乃太夫師に師事。海の会主宰。

・素踊長唄『越後獅子』

すおどりながうたえちごじし
長唄舞踊『越後獅子』は越後の国から江戸にやってきた旅芸人の角兵衛獅子の男が、大道で踊りや獅子の軽業などを見せる様子を描きます。賑やかな中に鄙びた情趣を漂わせる、変化に富んだ作品です。
素踊は、扮装をしないで紋付袴姿で日本舞踊を踊ることをいいます。

・三味線二重奏曲『呼応』

しやみせんじゆうそうきよくこ おう
三味線二重奏曲『呼応』は、昭和39年(1964)に長唄三味線方で作曲家の杵屋正邦が発表しました。二つの三味線が追いつ追われつ交互に激しく演奏しながらも、一音たりとも同時に演奏することはありません。邦楽と洋楽を融合させた、三味線音楽に新境地を拓いた作品の一つです。

・長唄『二人椀久』

ににんわんきゆう
長唄『二人椀久』は、椀屋久右衛門という大坂の豪商が新町の傾城(けいせい)松山と馴染み、家業を顧みなかつたために親類たちに座敷牢に閉じ込められてしまった、こんな実話に基づく作品です。
松山に逢いたさで座敷牢を抜け出た久右衛門が、当て所もなくさ迷い歩いて疲れ、大きな松がある海に近い道端でまどろむ。その夢の中に松山が姿を現した。恋に酔い痴れた華やかな昔を回想する久右衛門だが、束の間に松山の姿は消え、気が付くと傍らには松の木が立つばかり。
お座敷での遊び三味の楽しさと、夢醒めた哀しみ。三味線の技巧がひととき発揮される名曲です。